

KOSEN の窓

今年3月21日、本校の高橋薫校長、新里雄人事労務係長と共にフランス西部のルーアン市を訪問し、高等教育機関クランゼコールである「エシジェリック」と有明高専との交流協定を締結しました。

パリから電車で1時間半、美しい歴史的な街並みを残し、日本でも知られるカマンベールチーズの故郷であるルーアン市。一方で自動車工業を中心とするノルマンディー地方の中核的工業都市でもあります。

今年3月21日、本校の高橋薫校長、新里雄人事労務係長と共にフランス西部のルーアン市を訪問し、高等教育機関クランゼコールである「エシジェリック」と有明高専との交流協定を締結しました。

フランス高等教育機関との交流協定の締結

副校長(国際交流担当) 山口 英一

ロス・ゴーン氏もクランゼコールの卒業生です。その中でエシジェリックは電気・電子工学分野を専門としており、地元ルーアン市に多い自動車関連企業と強いつながりを持ち、学内には企業の間一貫教育で修士号を得るというフランス独自の

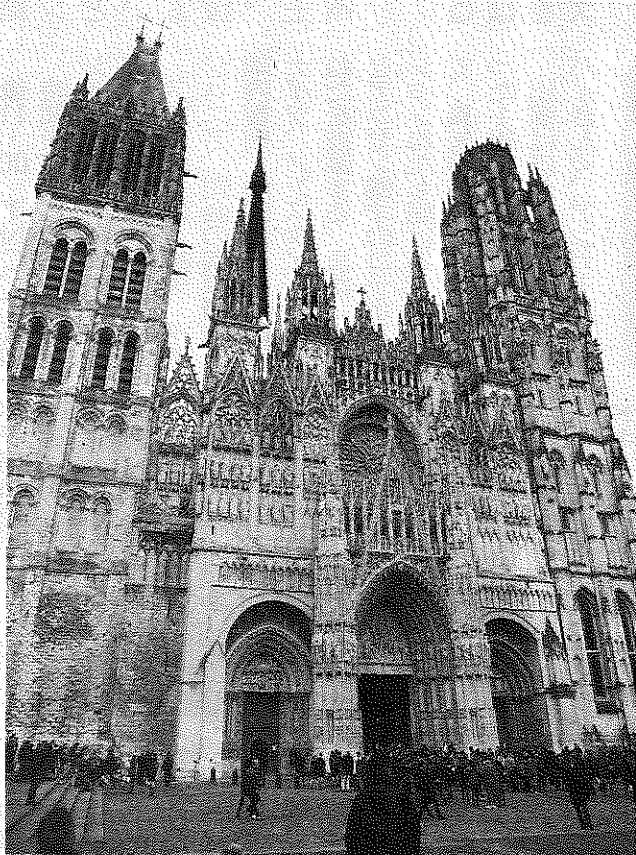
寄付による研究施設がポイントの一つです。学生数も学年300人、5年生までで約1500人と少人数で専門教育を行っており、まさに高専制度に近い教育機関です。現在、日産の会長を務めるカル

いて、来年3月には有明高専からフランスへ学生交流(10日間程度)と、専攻科生のインターシッパ(数週間)の派遣を計画しています。その際は従来の学生派遣と同様に創

立50周年記念の寄付金による「グローバル人材育成・学生支援基金」で費用助成が利用できます。また来年6月には、相手校から有明高専に5人のアカデミックインター

ンシッパの受け入れを行う予定です。この交流協定が、有明高専の国際化をさらに促進してくれることを期待しています。

(不定期連載)



ルーアン市のシンボルの大聖堂

有明高専